

Peace building by Interfaith Initiative :
Beyond Militarism and Nationalism

宗教者が作る平和：
軍事力・ナショナリズムを超えて

東アジア次世代リーダー育成プログラム
平成 30（2018）年度 活動報告書

平成 30（2018）年 5 月 19 日

ARI（Asia Regional Initiative）

1. 活動の目的

本プログラムは 地域 (local) に根を張り、地球的な (global) ビジョンを共有して協力できる「東アジア人」として、宗教間・国家間の障壁を越え東アジア共同の未来を構成することのできる人材を育成することを目的としています。

2014 年度から 2016 年度までの第 1 段階である 3 年間は、主に次のような目的を達成するために力を尽くしました。

1. 日韓で、それぞれの宗教の中で、中間リーダーシップを取っている今後柱になってほしい人々を探すこと
2. 参加した参加者が積極的に活動をしながら、参加者が自ら企画を立案し今後の SEAL プログラムを考えていくこと。
3. 宗教間協力を深めるため、韓国では仏教（円仏教を含め）、日本ではキリスト教の参加を促進することなど、まず参加者の基盤を作ること。
4. SEAL プログラムの特徴である地域 (local) の観点から平和と幸福を目指す宗教の役割を明確にすること。またなぜ東アジアの新しい構想や平和を地域でやるべきであるのかなどを参加者がより明確に認識すること。
5. 日韓の参加者が今後、他のアジアの参加者を包摂できるように日韓の協力プラットフォームを強化すること。
6. 周辺からのアジア、つまり国家中心のアジアではなく根本的な共同体の観点からアジアを省察し、今後の国家や地域のあり方を再考し始めること。

上記をめざす去る 3 年間の目標は全て完成したのではないが、だいたい主な流れは作られて、3 年目であったジェジュワークショップでは、参加者の自発性とプラットフォームが落ち着くられていました。また、第 2 回目までは、曖昧に感じたがプログラムの趣旨や目的が参加者の発言でなぜローカルとリージョンが同時考えるべきであるものが何と無く感じられその大事さに関して興味を持って勉強したいという感想が多くなりました。

この背景を踏まえて、第 2 段階である今年からは、東アジアの真ん中から少し離れ島から見る視点あるいは周辺から見る立場で考えるプログラムを始め、2017 年のプログラムは、沖縄で学ぶアジアの軍事主義とナショナリズムを勉強することになりました。これからは、同じく国家からの周辺にある沖縄や香港そして特別な位置を占めている台湾などとのつながりを模索していきます。特に沖縄で

は、沖縄人あるいは沖縄文化であるアイデンティティも元々ありましたし、太平洋戦争の時は、沖縄住民の 集団自決という戦争の悲劇そして、朝鮮人と中国人も強制連行されているアジアの悲惨な事件もありました。だがこのような過去を未来を向けて記憶するのが沖縄の住民の知恵で平和的に抵抗しながら軍事主義とナショナリズムを超え、マチを作ってきたと思うし、これを学ぶのが起きなワークショップの開催の目的である。

2. 活動内容

第4回 東アジア次世代リーダーシッププログラム

SEAL (School for East Asia Leadership) 2016 の実施

【期間】

2018年 2月7日(水)～ 2月11日(日)

【開催場所】

日本沖縄本島（那覇・読谷・宜野湾等）

合宿場所：読谷村のゲストハウスなど、宜野湾セミナーハウス。

訪問場所：平和祈念公園、シムクがま、チビチリガマ

読谷村： 恨の碑、やちむんの里、北窯教会、 金城実さん@アトリエ

辺野古： 1)乗船デモ、2)浜のテント(説明会) 3)シュワブ前座り込み

米軍基地：嘉手納基地、普天間基地、アメリカンビレッジなど

【テーマ】

「宗教者が作る平和：軍事力・ナショナリズムを超えて」

東アジア地域は 20 世紀の課題と 21 世紀の課題が重複し、その解決は時間的にも空間的にもすべて断絶しています。例えば、東アジアにおける領土紛争（日中間：尖閣/魚釣島、日韓間：独島/竹島、日露間：北方領土/クリル列島など）は、各国のナショナリズムを刺激し、その根底には 20 世紀の歴史問題が存在しています。それだけでなく、「北朝鮮問題」はいまも冷戦を強化する東アジア地域特有の問題として残ったままで解決に至っていません。

2018年に年が変わってからは、北朝鮮と韓国で対話ができ、平昌オリンピックで北朝鮮が参加する事を決め、丁度韓米軍事訓練がオリンピックの期間には、中止することになり、朝鮮半島では、11年ぶりに首脳会談を含め平和への動きが生まれています。4月27日の板門店での南北首脳会談は、世界が注目しました。または、超米首脳会談も予定されていて南北の分断政府の両立した1948年から70年ぶりに新しい冷戦解体をプロセスの入り口に立っているところです。

つまり、東アジアは、大きく見ると、1989年ベルリン壁の崩壊以後ヨーロッパの統合が進んできたように、朝鮮半島の行方は、はっきりとは予測できませんが、どちらにしても大きな変化があり続けるのは、確かになるでしょう。いまの朝鮮半島での動きは、朝鮮半島の分断と冷戦の特徴があり、トップダウンのやり方で速いスピードで動いています。しかしながら、もっと深く見ると今から市民の立場特に、‘東アジア人’という観点からの発想が必要となります。軍事、安保、そして外交的な問題がうまく行くためにも市民社会の協力基盤がなければマインドセットは変わらず、冷戦の心は、解けないでしょう。最近世界的には、宗教の役割が弱くなりつつありますが、実際は、宗教への期待が減っているより、宗教が人々の期待に応えられているかも知れません。つまり政治的な変化が不確実であり、世の中が深く変化している中でなればなるほど、宗教の役割は、もっと明確に歴史の動きを見る観点が必要であり、人々の安全を守る役割を含め、時代に応じる価値やビジョンを一生懸命議論すべきであると思います。

この脈絡で、沖縄でのワークショップは、非常に意味がある場所で、アジアの過去、現在そして未来を構想する一つの原点にもなると思います。沖縄は、琉球である国あるいはローカル文化やアイデンティティを持っています。沖縄の内部では、沖縄の独立を目指す人々もかなりいますが、日本の一部として同居する知恵を持っています。また沖縄では、世界各地から観光客が来る非常に有名な観光地でもあります。在日米軍基地の70%が駐屯している基地国家のシンボルにもなっているところです。

また沖縄は、太平洋戦争の被害地であり、住民は、集団自決など悲惨な記憶を持っておりその後も米軍の基地として土地を奪われて、米軍優先の政治で、本土は全く違う立場で暮らしてきました。しかしながらその被害受けている人々が加害者の中でなくなった命も大事にした事と強制連行されたり、戦争で亡くなった植民地の人々の命などを大事にしたのは、沖縄からの平和を発信しているものである。ま

た、ベトナムの戦争の時には、沖縄から飛ぶアメリカの戦闘機による犠牲者にも心の痛みや謝る気持ちで平和を望む日常生活が強められていると思います。

このような沖縄の村民の歴史に対応する態度や記憶は、東アジア人として学ぶべきであるものがたくさんあります。まだまだ残っている軍事主義とナショナリズムがどうして日常の生活を抑圧するのかもよく見えるので、沖縄では、戦後以来ずっといてきた分断体制、冷戦体制、国家安保優先、そして復活しているナショナリズムなどがより明確に立っています。だからこそ辺野古や、やんばるの森を守る住民ガチが日常的活動のように米軍基地建設を反対することが長い間やっていることが可能である。

今回の最も重要なテーマは、封建主義、帝国主義、軍国主義、軍事主義そして冷戦による分断がまだまだ人々の記憶は勿論、島内の隅々残っているチェジュを学ぶことであった。二番目のテーマは、チェジュを通して沖縄を学び、その共通点を考えることであった。つまり、中央中心の国家主義によって日常化している差別と被害から、物質主義に基づく成長と軍事主義に基づく国家安保のイデオロギーを共に省察することであった。三番目のテーマは、中央と周辺に分断、また周辺の内部にある分断を乗り越える宗教者の役割を考え、自らに何ができるかを探求することであった。

我々は、このような脈絡で、去年ジェジュで学んだことを始め、今年沖縄を勉強し、今後台湾や香港などの国でありながら国家になりにくくなっているところから新しいローカルの発想と東アジアの平和と協力できる共同の未来を現場の人々と一緒に議論しながら学びたいです。特にそのような地域の発想が政治を変えるだけではなく根本的な価値とライフスタイルを変えることができるように宗教者の役割と一緒に工夫することも大事な目的で有ります。

【ワークショップの主なプログラム】

1. スタディーツアー

- 1) 平和祈念公園 （説明：片岡平和）
- 2) 読谷村の集団死： シムクガマとチビチリガマの悲劇と違う結果の理由 （説明：金井創牧師）
- 3) 読谷村の 恨の碑 ：（説明：金井創牧師）

- 4) キム・キガンさんとの対話と音楽（在日芸術家：劇団 石(トル)：在日としての町の暮（北窯教会）
- 5) やちむんの里での芸術村起こし（現場の方々）
- 6) 金城 実（彫刻家）さんの講演：芸術で弱者・被害者の歴史を語る（金城 実さんのアトリエ）
- 7) 知花昌一（ヌーがヤーの主人、平和活動家、本村議会議員）
- 8) 辺野古基地反対運動への参加と住民との対話：①乗船デモ、②浜のテント(説明会) ③シュワブ前座り込み
- 9) 米軍基地：嘉手納基地、普天間基地、アメリカンビレッジなど（説明：金井創牧師）

2. ワークショップ

- 1) 日本と韓国の2017年度の5大ニュース
- 2) 私たち宗教者の特徴
- 3) 私たちにとって平和の意味
- 4) 私たちが暮らす世界の現実と理想
- 5) 私たちの理想に向けて
- 6) まとめ

3. 活動の実施経過

(2017 年)

- | | |
|----|---|
| 4月 | 韓国側の実行委員会会議①
韓国側の勉強会①
テーマ：アジアから見る沖縄とその課題
講師：李起豪（韓信大学）
日本側の実行委員会① |
| 5月 | 韓国側の実行委員会会議②
韓国側の勉強会②
テーマ：沖縄に関する米軍基地問題
講師：片岡平和（早稲田奉仕園）
日本側の実行委員会② |
| 6月 | 韓国側の勉強会③ |

テーマ：アジアの冷戦体制と韓半島の情勢
講師：朴スンソン（東国大学）

- 7月 日本側の勉強会①
テーマ：知りたい、ワシントンの中の「日本」
～日米外交に多様な声を届けるロビイング活動の手応え
講師：新外交イニシアティブ・弁護士 猿田佐世さん
- 8月下旬 沖縄への事前調査と現場のコーディネーターのお願いと相談
（アリの李起豪と沖縄キリスト教学院大学の金井創牧師
日韓実行委員会会議（東京）
- 9月下旬 日本側の実行委員会会議
韓国側の実行委員会会議③
韓国側の勉強会④
テーマ：サード配置と円仏教
講師：朴デソン教務（円仏教）
- 10月 参加者募集の活動始め。
（特に日本側では、キリスト教会との対話）
韓国側の実行委員会会議④
韓国側の勉強会⑤
テーマ：沖縄の住民による平和活動
講師：金井創牧師（沖縄キリスト教学院大学）
- 11月 韓国側の実行委員会会議⑤
韓国側の勉強会⑥
テーマ：沖縄ワークショップへの案内と議論
コーディネーター：李起豪（韓信大学）

日本側の勉強会②
テーマ：北朝鮮の今——過去10年を振り返って
講師：寺西澄子さん（KOREA こどもキャンペーン事務局）
- 12月 日本側の実行委員会
日韓共同実行委員会と拡大会議（2泊3日、東京）
韓国側の実行委員会会議⑥
日本の参加者拡大のための勉強会開催
- （2018年）
1月 日本と韓国の参加者の確定と事前勉強会や面談
日本側の勉強会③

テーマ：過去1年の五大ニュース

コーディネィ：廣瀬 稔也（NPO 法人東アジア環境情報発信 所）
宇梶 憲市郎（芳澍女学院情報国際 専門学校）

2月7日

～11日 **ワークショップ実施（詳細スケジュールは下記）**

3月～5月 日韓実行委員会のインターネット会議（3月から毎月1回）
フォローアップ会合（日、韓それぞれ）
韓国の参加者の勉強会スタート（4月から2ヶ月ずつ1回）
インターネット日韓会議

4. ワークショップの日程と進め方

日程

【2月7日（水）＝1日目】

15：00 参加者集合@那覇空港
16：30 フィールドワーク①平和祈念公園&沖縄県平和祈念資料館
18：00 夕食 & オリエンテーション@うしお（貸切）
21：00 宿舎チェックイン…3か所に分宿

【2月8日（木）＝2日目】

7：00 朝食…前日に各自で準備する
8：45 ぬーがやー集合 ※徒歩で移動
9：00 フィールドワーク②
 シムクガマ →（徒歩）→ チビチリガマ
10：30 バス乗車 → 恨の碑
12：00 昼食@ゆいまーる
13：00 お話①金城実さん@アトリエ
14：45 やちむんの里 見学
15：30 お話②きむうきがんさん@北窯教会
17：00 移動
17：30 夕食@大木海産物レストラン
18：30 宿舎へ移動
19：00 お話③沖縄からの参加者

【2月9日（金）＝3日目】

7：00 朝食
7：30 チェックアウト&出発
8：30 フィールドワーク③辺野古

(1) 乗船、(2) 浜のテント、(3) シュワブ前座り込み
テントの3班に分かれる。

12:00 昼食@わんさか大浦パーク(～13:00)

14:00 フィールドワーク④

嘉手納基地@道の駅かでな(～15:00)

16:00 フィールドワーク⑤普天間基地(～17:00)

17:30 ぎのわんセミナーハウスチェックイン ⇒ 夕食

19:00 ワークショップ①日本と韓国の5大ニュース(～21:10)

20:45 ワークショップ②私たち宗教者の特徴

【2月10日(土)＝4日目】

7:00 朝食

8:30 ワークショップ③私たちにとっての平和

10:45 休憩

11:00 ワークショップ④私たちが暮らす世界の現実と理想

12:25 昼食

13:30 ワークショップ⑤私たちの理想に向けて

18:00 夕食

19:00 自由時間

【2月11日(日)＝5日目】

7:00 朝食

8:45 ワークショップ⑥まとめ

12:00 終了

⇒オプショナルプログラム(国際通り観光／不屈館訪問グループ／佐喜真美術館)

■宿泊

【2月7日(水)・8日(木)＝2泊】 ※3カ所に分宿します。

■民宿 何我舎(ぬーがやー)(12名)

沖縄県中頭郡読谷村字波平174番地 TEL 080-2710-5269
(知花)

■SEVEN HOUSE 高志保(6名)

沖縄県中頭郡読谷村字高志保215番地1 TEL 098-989-7617

■読谷239アパートメント(15名まで)

沖縄県中頭郡読谷村高志保239番地 TEL 090-5723-3557

【2月9日(金)・10日(木)＝2泊】

■ぎのわんセミナーハウス

沖縄県宜野湾市志真志4丁目24-7 沖縄キリスト教センター内
TEL 098-898-4361

■ワークショップの進め方

2/9 (金)

【ワークショップ①】日本と韓国の5大ニュース

ファシリテーター：李起豪

19：00 ①過去の5大ニュースの振り返り by ファシリテーター

19：10 ②日本側参加者と韓国側参加者が準備した5大ニュースを発表する。（日韓各10分×2言語）

a)タイトル、b)概要、c)選んだ理由 ★要事前ワーク★

19：50 ③それぞれの発表について質疑を行う。

20：10 ④選ばれた日韓の5大 이슈を踏まえ、2018年がどのような年かを紹介する。

By 李起豪さん (ARI)

20：30 WS①終了

【ワークショップ②】私たち宗教者の特徴

ファシリテーター：宇梶 将征

20：45 ①宗教者とはいかなる存在であるかを考えるため、その特徴（強みと弱み）を付箋に1つずつ書き出す。（いくつでも可）

20：55 ②日韓の言語別に2グループに分かれて、KJ法で宗教者の特徴（強みと弱み）を整理・抽出する。

21：00 ③各言語グループ別に発表する。（日韓各5分×2言語）

21：20 ④それぞれの発表について質疑を行う。

21：45 WS②終了

2/10 (土)

【ワークショップ③】 私たちにとっての平和

ファシリテーター：片岡平和

08：30 ①宗教ごとに、それぞれの宗教における「平和」とはどのような概念をさすのかを模造紙にまとめる。★要事前ワーク★ ※もしくは PPT にまとめておけば時間を短縮可

08：45 ②宗教ごとに「平和」の概念について発表する。（1宗教 5分×2言語）

09：45 ③それぞれの宗教ごとの発表を聞き、平和の概念に関する共通点と差異点を1つずつ付箋に書き出す。

09：55 ④日韓の言語別に2グループに分かれて、KJ法で平和の概念に関する共通点と差異点を整理・抽出する。

10：15 ⑤各言語グループ別に発表する。（日韓各5分×2言語）

10：35 ⑥それぞれの発表について質疑を行う。

10：45 WS③終了

【ワークショップ④】 私たちが暮らす世界の現実と理想

ファシリテーター：朴永楽

11：00 ①フィールドワークの行程の写真を Google photo を見ながら振り返る。⇒記録集に利用

11：15 ②フィールドワークで見たこと、感じたこと（現実）を1人5つずつ付箋に書き出す。

11：25 ③日韓の言語別に2グループに分かれて、KJ法で“現実”を整理・共有する。

11：45 ④各言語グループ別に発表する。（日韓各5分×2言語）

12：05 ⑤それぞれの発表について質疑を行う。

12：25 昼食休憩

13 : 30 ⑥WS③で導き出した各宗教に共通する平和の概念（理想）と
現実の世界にどのようなギャップがあるのかを自由に議論し、
差異を明確にする。

15 : 00 WS④終了

【ワークショップ⑤】私たちの理想に向けて

ファシリテーター： 黄寶賢

15 : 15 ①WS②～④の議論を振り返り、明確になった現実と理想のギャップ
を再度、確認する。

15 : 30 ②理想と現実のギャップを埋めるために、宗教者として何ができる
かを自由に討議する。

※出された意見は記録集用に記録をとる。

17 : 00 WS⑤終了

2/11 (日)

【ワークショップ⑥】まとめ

ファシリテーター： 廣瀬 稔也

08 : 45 ①WS①～⑤の議論を PPT で振り返る。⇒記録集に利用

09 : 00 ②フィールドワーク&WS を通しての感想をシートに記入してもら
う。⇒記録集に利用

09 : 10 ③ 1 人ずつ感想を発表してもらう。（1 人 2 分× 2 言語× 30 人）

11 : 10 ④SEAL プログラム顧問団（野口さん／鄭さん）より、講評をいただ
く。

（1 人 5 分× 2 言語× 2 人）

11 : 30 ⑤ARI より、今後の SEAL について提起を行い、意見を聞く。

12 : 00 WS⑥終了

5. 活動の成果

- ✚ 今回は、2017年2月のジェジュのワークショップから参加者が主体的に参加し始め、それぞれ事前勉強会も着実にやりながら一緒に準備することができました。韓国の勉強会では、日本の参加者（実行委員会のメンバー）で片岡さんを招き沖縄のことを勉強しながら日韓の交流も活発に行いました。また、今回沖縄ワークショップのコーディネートの役割をやってくださった金井創牧師もいらっしやって講演を受け勉強になりました。一応日韓の参加者がワークショップだけではなく、お互いに交流をしながら共通点を広げてきたのは、大きい発展したものであります。
- ✚ 今までの参加者は、韓国は、キリスト教が多く、日本は、立正佼成会の参加者が主になってきたのですが、韓国では、円仏教が今一つの柱になっていますし、日本では、早稲田奉仕園の若者と沖縄のキリスト教系が参加し前より宗教の間でのバランスを取るようになりました。まだ他の宗教に広げる必要がありますが、少なくとも仏教系とキリスト教の間でのバランスを取るようになりました。今回のことをきっかけにして沖縄との協力は、もちろん日本おキリスト教の参加をヒレゲル可能性も高くなったと思っております。今後は、日韓とともに、カトリックと曹溪宗などの大きい仏教のメンバーの参加を誘う必要があります。
- ✚ 今回の参加者では、世代の問題も多様化され、3、40代が主に参加に加えて、5、60代と20代の参加も少し増えました。ある意味では、ジェジュでは、世代間の対話もできそうだったという評価もありましたが、やはり、SEALは、3、40代を主にして自分なりの経験があることを基にして、今後自分のリーダーシップを発揮する人々にフォーカスを与えたほうがいいという評価が多かったです。なので、もしかしたら若者向けの教育は別にやるのかあるいはオブザーバーとかインターンの立場で参加してもらってプログラムの参加者を明確にしたほうが良いかと意見が多かったです。
- ✚ 今回は、準備する過程の中で、日韓それぞれの勉強会が続いてきたのは、大きい成果であります。日韓の実行委員会と一緒に顔を合わせじっくり議論する機会が無かったので、プログラムの中でのワークショップが十分に用意することが少

し足りなかったと反省しました。なので、今後は、出来るだけ、年1回は、事前準備の時に日韓実行委員会が会う機会をわざわざ作る必要があります。

- ✚ 場所として沖縄の一番役に立ったのは、やはり沖縄というローカルがナショナルレベル、リージョナルそしてグローバルな動きや課題が全て連携され見えることで有ります。参加者は、軍事問題や国家安保問題はいつも国以上のレベルだというのが普通でしたが、沖縄では、その問題が日常生活に深く関連しているのが見えてきたので、沖縄から見る世界あるいはアジアがうまく理解できていたと評価します。
- ✚ 今回のフィールドワークでは、金城実さん、金きがんさんなどの芸術家と一緒に、記録には残らないけれども記憶には深く刻んでいる傷をどうして芸術で表現しその心の傷を手当をするのかを学びました。芸術が歴史の悲劇を表現しながら共に反省し、和解の道を開くことができる新しい平和プロセスだと信じるになりました。
- ✚ 沖縄の米軍基地を見て、日本の本土ではあまり見えなかったし、韓国でも最近は見えにくくなっている米軍基地の様子がよく見えてきました。つまり、アメリカあるいは、米軍をアジアの時空間のどう位置付けるかを一緒に考えることになりました。つまり平和のための軍隊は必ず必要であるものなのか、または、朝鮮半島にある米軍はどう見るのかなどが疑問になって、今後のテーマの一つになり持続的に考える共同のテーマになりました。
- ✚ 今回のワークショップで宗教者の平和への概念と責任に関する議論ができ宗教間での共通点と相違点を考える機会がありました。ここには、宗教により、異なる考え方もありますが、結局人間の幸せと平和を作ることには、間違い無いということで、協力の共通の基盤を固めることの大事さを共感しました。
- ✚ 最後に、朝鮮半島での新しい動きが今後の東アジアにどのような影響を与えられるのか特に軍事力による平和ではなく村の豊かさで繋がる平和をどう作っていくのかが一番大事なテーマになっていました。これに従って国家のあり方も変わっていくべきではないのかと感じたのも重要な成果であります。

6. 今後の課題

- 前と比べると言語に興味を持ってお互いの国の言葉を学ぶ参加者増えていますが、やはり自由に話し合うための言葉の壁をどう超えるのかは、大きい壁であります。特に今後台湾、香港などへ広げる事を予定にしているので、言葉の問題は、大きいです。
- 今回は、韓国と日本の参加者がすでに勉強会をりましたが、お互いにこのような勉強会がもっと積極的共有できる方法を工夫する必要があります。なので今後は、勉強会のテーマに挙げられている 이슈とあげたい 이슈を含む我々のコンテンツを体系的に作る必要があります。
- 毎年一回のワークショップでは、参加者の広がりには限界があるし、アジェンダの拡散にも限界があるので、2年1回ほどは、シンポジウムあるいは、フォーラムなどを開催し宗教者との接続面を広げる必要が有ります。
- 去年から今年までは、勉強会などが活性化して少しずつ進歩していくのは、いいですが、これを持続的サポートができる事務局のキャパセティを拡大することが課題になっています。
- 事務局のキャパセティ高めるのは、いきなりは、難しいですので、2018年度は、今後のプログラムを活発化させるためにアリの基盤を強化することに一応等力する必要があります。例えば、インターネットでのウェブサイトのロンチングやすでにあるフェイスブックなどの IT を活用することから始める必要があります。
- 事務の基盤を強くするためには、やはり、ヒューマンリソースを強くしなければなりません。スタッフだけではなく、日韓の間での実行委員会の役割と、諮問委員会そして参加者の自らの役割がうまく協力できるように仕組みを(u_u)必要が有ります。